

◆平成24年度地域とともにある学校づくり推進協議会(福島会場)

パネルディスカッション・テーマ

地域とともにある学校づくり ～目指すべき学校運営の在り方～



秋津小学校校庭での
防災被災訓練を兼ねた一泊キャンプ
での棒パンづくり

2012年11月15日

いわき芸術文化交流館アリオス

岸 裕司

(株)パンゲア代表取締役

秋津コミュニティ顧問

学校と地域の融合教育研究会副会長

埼玉大学・日本大学非常勤講師

文部科学省コミュニティ・スクール推進員(CSマイスター)

前千葉県社会教育委員会議員兼生涯学習審議会委員

習志野市秋津地区(団地+戸建)の概要

- ・秋津のまちと幼稚園併設の秋津小学校は、1980年に東京湾の埋立地に同時に誕生。秋津小児童数342名。人口6996人、2868世帯、全2687戸内分譲2111(78.6%)
- ・1990年度から3年間、生涯学習研究指定校。PTA中心に学校・家庭・地域融合開始
- ・1992年秋津コミュニティ創設。1995年秋津小学校コミュニティルーム(4教室+陶芸窯+敷地300㎡)開設。鍵を住民委員51人の内15人が管理しながら生涯学習を推進
- ・秋津コミュニティの約40のサークルには、おやじが主の工作クラブやパソコン倶楽部から各種の音楽系があり、自らの学びとともに授業に参画している人が多いのが特長
- ・2001年ビオトープ設置=コミュニティガーデン。総合型地域スポーツクラブ創設
- ・コミュニティルームは365日開放。放課後休日240日間開催の世代間交流事業「秋津・地域であそぼう！」も自主運営。学校を拠点に誰でもが集い学ぶ「居場所」
- ・秋津小学校は、2006年に習志野市教育委員会から「コミュニティ・スクール(「学校運営協議会」制度)」の指定を千葉県最初に受けた。
- ・2012年現在一世帯平均2.44人(全国平均2.36人、2011.10)、65歳以上の高齢化率26.6%(国平均23.3%、2011.10)
- ・0～15歳人口805人(11.5%)に対し、退職前と直後の元気なシニア55～65歳人口1343人(19.2%)もいることからシニア1.7人が0～15歳児各1人に関わることが可能

融合の発想を活かした3つの秋津実践
＝小学校を拠点にした生涯学習と福祉のまち育て

①授業を住民と協働 年間延べ2万人参画

秋津小では**人間だいすきふれあい活動**と呼び、
50～105時間を学年に応じて毎年充当

◆**コミュニティ・スクール**に千葉県最初に指定される

◆文部科学省施策「**学校支援地域本部事業**」の小学校モデル

秋津実践



秋津の伝統「ばか面（めん）踊り」を秋津まつりで（3年生）



秋津まつりは授業の一環（全学年）

融合の発想を活かした3つの秋津実践

小学校を活動拠点にした生涯学習&福祉のまち育て

②校舎内施設を住民と共用・開放

放課後も休日も365日生涯学習 年間1万2千人利用

秋津小学校コミュニティルーム 1995年開設

放課後や休日も利用できる余裕教室4室＋余裕敷地300㎡＋陶芸窯

◆鍵は15人の運営委員が保管貸し出し、夜や休日も災害時も自主避難

◆2005年に文科省が開始した「**地域子ども教室**」も秋津コミュニティが自主運営

秋津実践

余裕教室の地域開放（1階4教室）



放課後コミュニティルームで民謡教室



休日にコミュニティルームでうどんづくり教室（男性の居場所）

融合の発想を活かした3つの秋津実践

③子縁（こえん）**で人と人、学校と地域をつなぐ**
学校を拠点に365日生涯学習を楽しむ**スクール・コミュニティ**を実現



校庭に手づくりした
ビオトープに、
休日に集い
ザリガニ釣りを楽しむ
地域の人々

子縁（こえん）は、子を持つ親はもちろんであるが、何らかの事情で子を持たない若夫婦や子や孫などもない、または同居していないお年寄りなどにも拡大させて、地域社会でさまざまな人と人をつなぐ新しい縁結びの考え方。
出典：岸裕司著『学校開放でまち育てーサステイナブルタウンをめざして』（学芸出版社、2007年）ほか

学社融合＝**学校教育**と**社会教育**の融合による秋津の成果
幼稚園併設の秋津の子どもはどのような青年に育ったか

①授業を楽しむ大人の参画者

年間延べ2万人 主に母親と高齢者

②学校施設開放＝秋津小学校コミュニティルーム

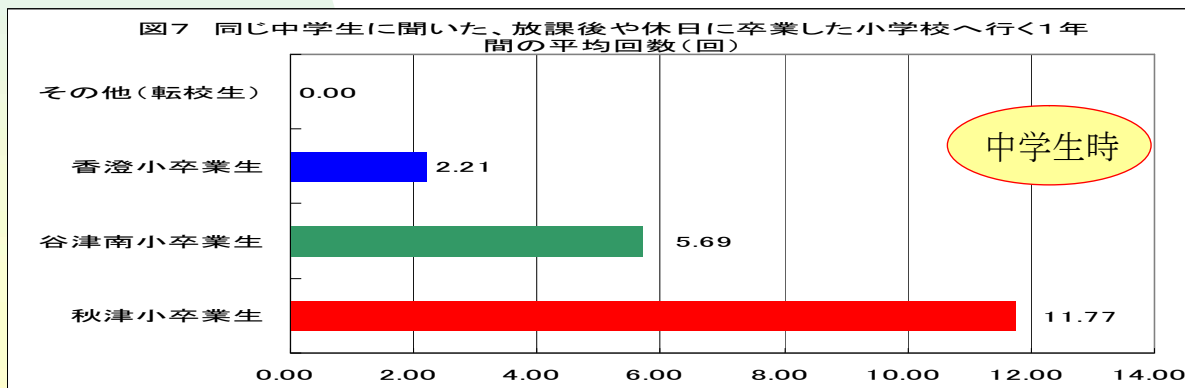
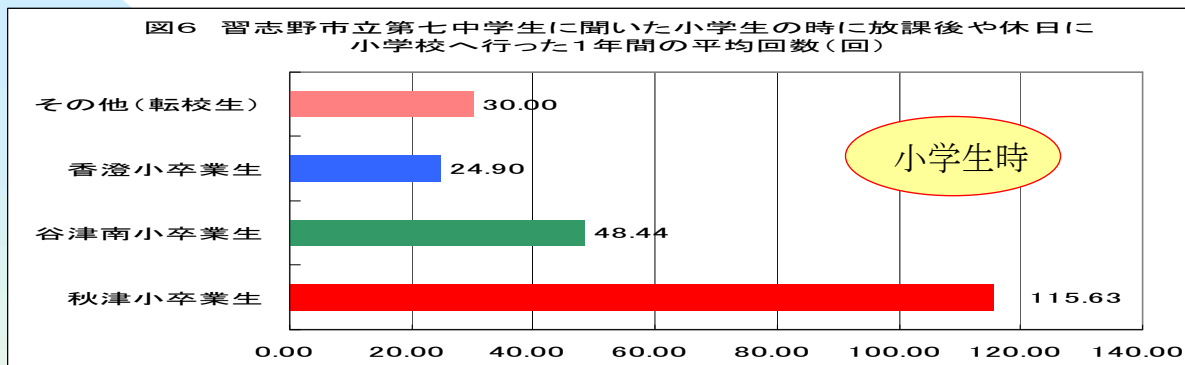
放課後も休日も生涯学習を楽しむ人数は

年間延べ1.2万人 休日は父親や男性が多い

<仮説>

秋津の児童は年間を通して多くの大人とふれあい、さまざまな体験を通しての**コミュニケーション能力**や**自尊感情**の向上といった**見えない学力**ともいえる**生きる力**が育成されているのではないか。

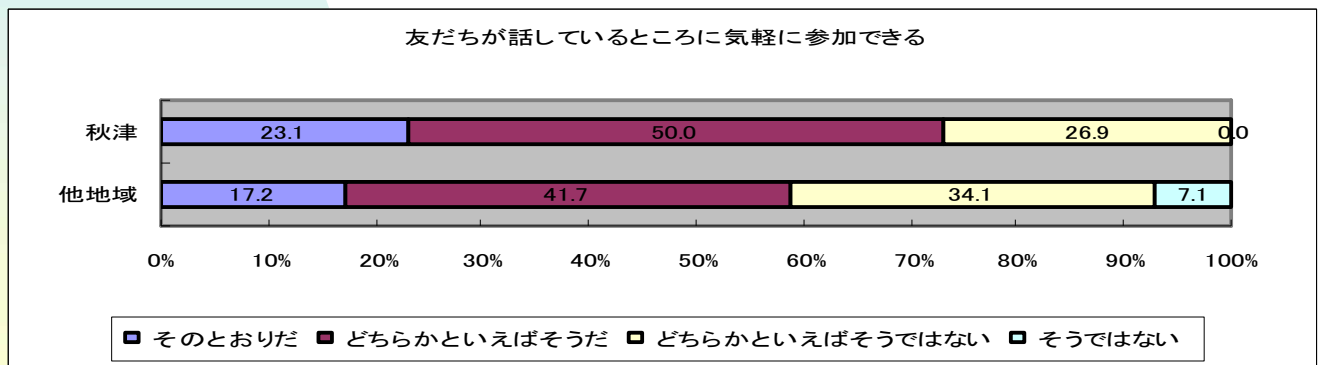
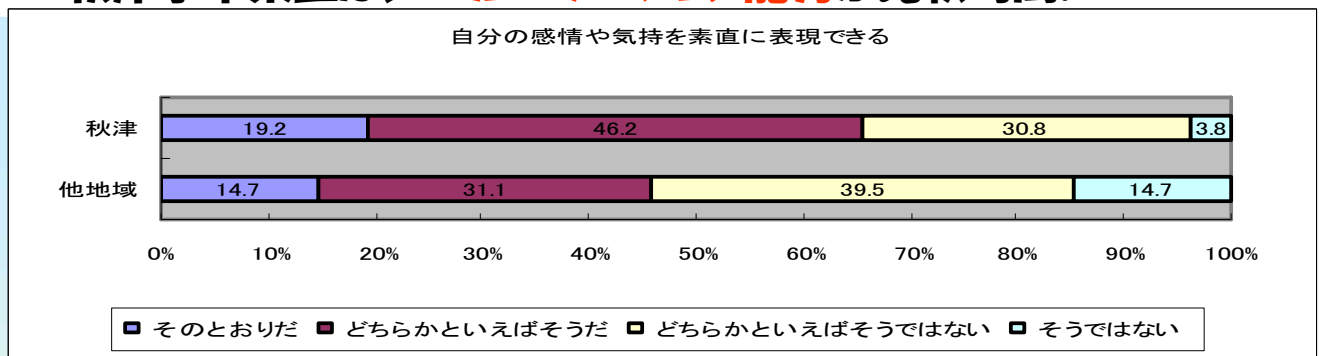
中学生に追跡調査 秋津小の児童は中学生になっても母校によく来る＝幼少期にふるさと意識が育成されていたからか ほかの小学校の卒業中学生との比較(2003年調査、1～3年生合計99人)



幼保小中連携は、いいじゃない！

滝瀬容子『地域に開かれた学校における子どもの環境認知』2003年3月、白百合女子大学大学院生時代の修士論文より、岸が作図。

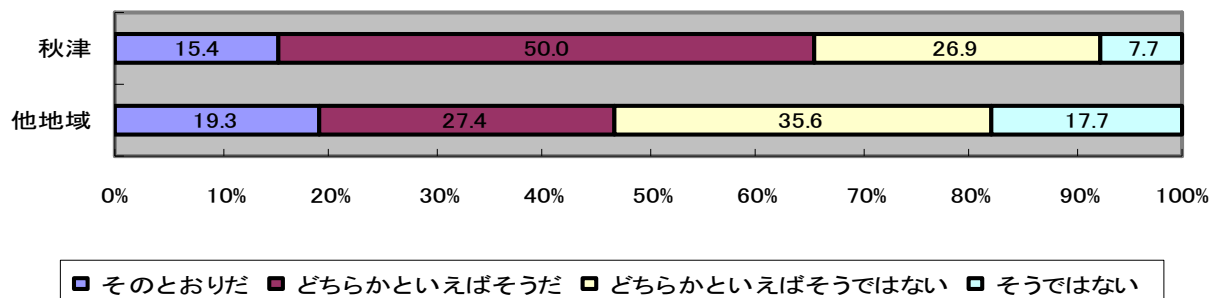
高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果 秋津小卒業生は、コミュニケーション能力が比較的高い



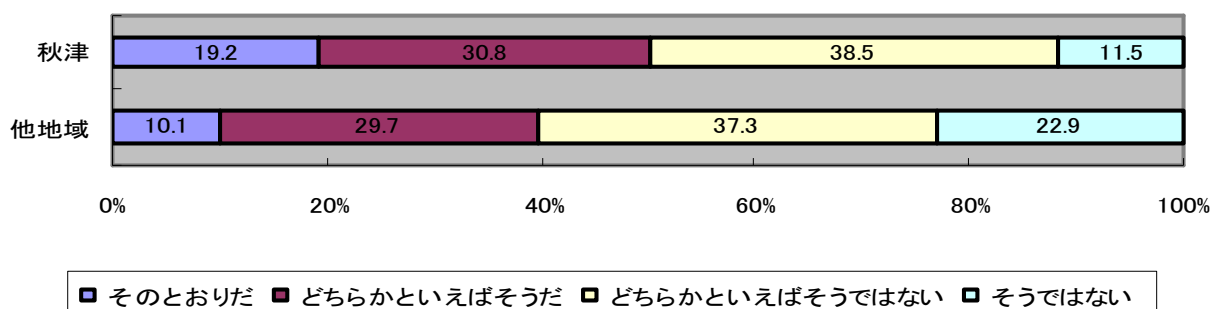
秋津小卒業高校生男子で調査時に秋津在住の26人とほかの地域(横浜市・川崎市・福岡県小郡市)の高校生男子370人との傾向の比較。2006年12月～7年1月調査。川崎末美東洋英和女学院大学人間科学部教授の調査レポート『共生型集住の可能性—家族・コミュニティ・地域・環境の視点から—学校を基地にした多元的共生空間』2007年3月3日「国立民族学博物館・多元的共生空間の創成に関する共同研究会」での報告書より。
※以下のデータも同様。

高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果 秋津小卒業生は、自尊心が比較的高い

自分にはどこか優れたものがある

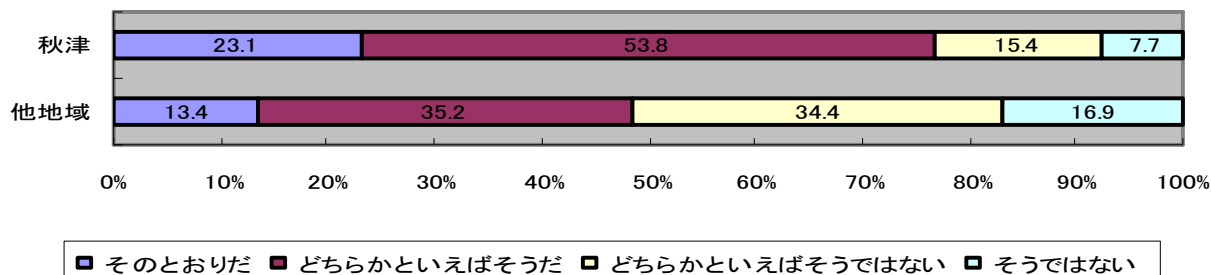


今の自分が好きだ

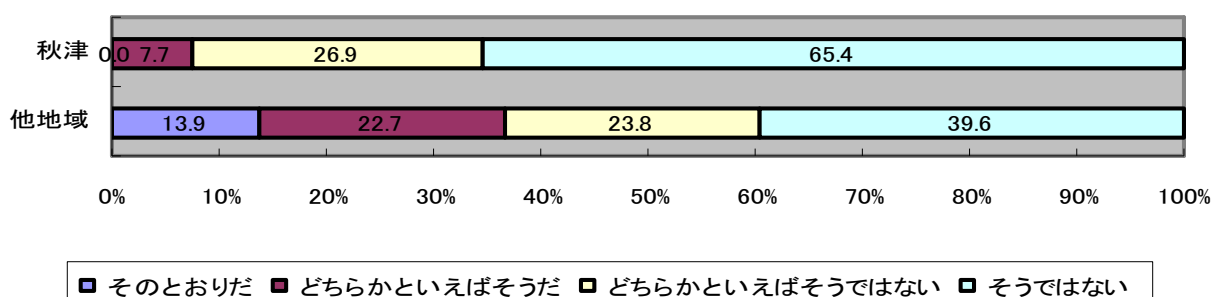


高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果 秋津小卒業生は、高校生活によく適応している

学校の行事には積極的に参加している



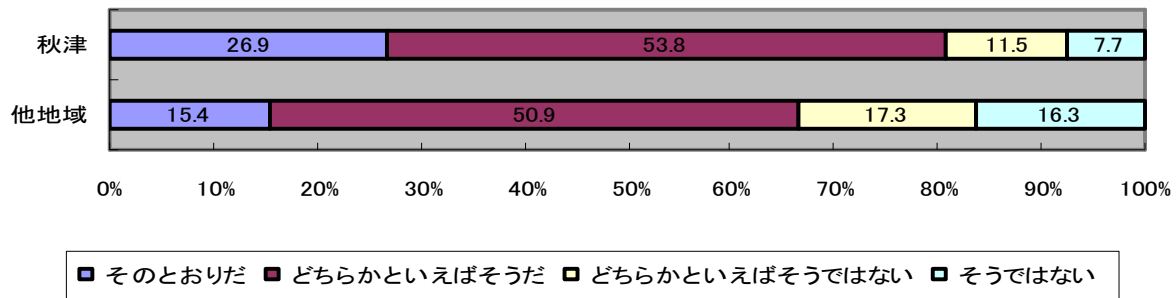
学校をやめたいと思うことがある



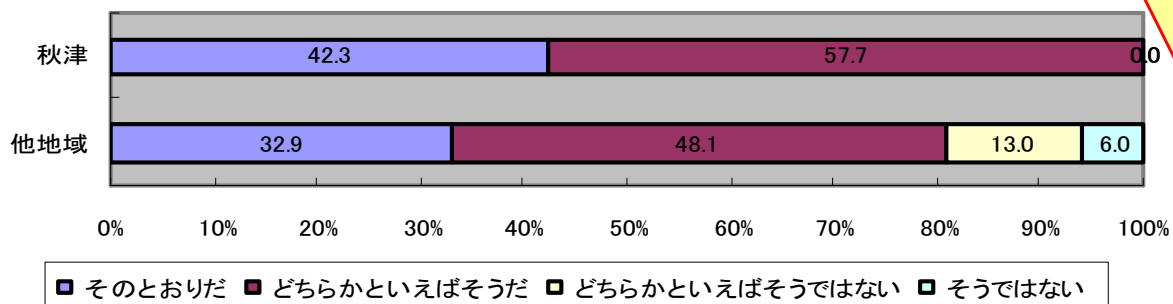
高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果 親が子どもの考えを尊重し、子どもは親を信頼している

母親の安定感は父親の学校や地域参画が多いからか？

お父さんは、私の考えや話をよくきいてくれる



お母さんは、信頼できる人だ



以上の秋津での追跡調査結果から、

幼少期からの開かれた学校・開かれた地域での
子育てのあり方から開かれた家庭に自然になり、
子どもらはふるさと意識と明るく前向きに生きる
力が育成され、中高校生に成長しても持続
されるのだろうと推察できる。

つまり、さまざまな問題を先送りにしない「三つ
子の魂百までも」を可能にするのではないかと、
まだ仮説であると思われる。

コミュニティ・スクールの先に目指すのは、
学校を拠点とした生涯学習と福祉コミュニティ
=**スクール・コミュニティ**創成の究極の目的

目的①誰でもが、いつでもどこでも学べる、生涯学習のまち
育てに寄与する学校と地域をつくる

目的②誰でもが、安心して安全に学び働き暮らせる、ノーマラ
イゼーションのまち育てに寄与する学校と地域をつくる

⇒教師にとっても働きやすい職場

例)子育てサークルがコミュニティルームで教師の乳幼児の面倒を見、休み時間
に授乳する。何かあれば校医に診てもらう

手法は、狭義と広義の学社融合を適用し、学校づくり・まち
育て・子育てを三位一体で推進すること



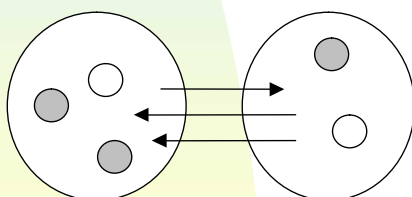
実践には「融合の発想 = Win & Win」を活かそう！

【融合の発想】関わりあう2人以上や機関同士が、主体者**A・B**双
方の目指す目的を同時に果たし、ときには**C**という新しい価値を
も生むように、はじめから意図して、あることを仕組む発想法。

融合は双方にメリットを生む手法

- ◆ **連携**と**融合**は似て異なるもの。使い分けが大切◆
連携をいくら積んでも融合にはならない

【 連携 = Give & Take 】

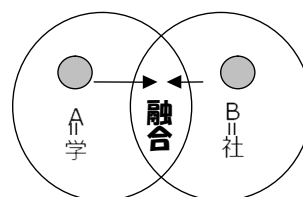


Ⅱ「連携」は重ならない

物的・人的な**資産の交換**の状態

※交換バランスが一方に偏りがちで長続きしにくい

【 融合 = Win & Win 】



Ⅱ「融合」は意図的に重ねる

物的・人的な**資産の共有や協働**の状態

※はじめから双方のメリットを仕組むので長続きする

おやじの出番の融合例 防災訓練 + お楽しみキャンプを学校で！

3者の課題は？

町会: 防災訓練に若者が参加しない

若者家族: 防災訓練は楽しくない

市役所: 自主防災体制がいまいち

⇒じゃあ、**融合で！**

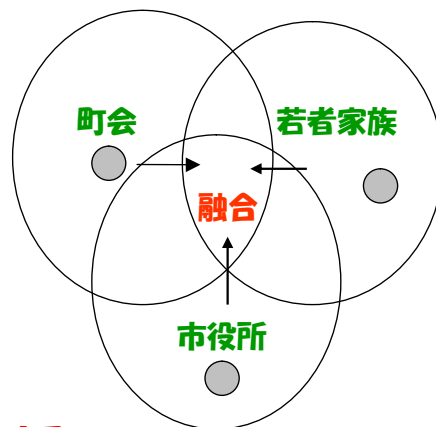
【 3者が融合 = 3者がWin&Win 】

「融合」は意図的に重なる

物的・人的な**資産の共有**や**協働**の状態

※はじめてから双方のメリットを仕組むので長続きする

課題をシメタ！
に**変える社会教育**
の手法例



防災被災訓練を兼ねた一泊キャンプ！ 父子主体のお楽しみイベントに工夫



阪神・淡路大震災
に学び
1997年に開始



学校に泊まり被災体験 + 1泊キャンプで**学校が避難所であることを体験**



学校に設置の防災釜を使う。
ナイフはこう使うんだぞ！

市役所と融合 防災倉庫の備品で 防災訓練



だれかがオシッコしたよ！



秋津実践

防災被災訓練 + お楽しみキャンプは大成功！

3者の課題を解消

町会: 防災訓練に若者の参加が増えた！

若者家族: 防災キャンプは楽しい！

市役所: 自主防災意識が高まった！

⇒ **融合はいいね！**

新しい価値C = 親睦・子どもの社会参画ほか

3.11の際にも活かされた！

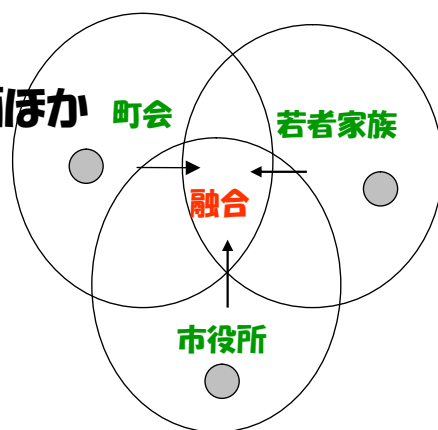
〔 **3者が融合 = 3者がWin&Win** 〕

「融合」は意図的に重ねる

物的・人的な**資産の共有**や**協働**の状態

※はじめてから双方の**メリット**を仕組むので**長続き**する

課題を
シメタ
に！



2011.3.11秋津小学校コミュニティルームに避難してきた住民の様子



買い出しからお年寄りのお世話も住民自治で。
学校に設置の防災倉庫の備品も利用

秋津の標語：少子化時代の大家族、学校と地域で育てる秋津っ子

秋津菌に感染したかな？
(危ない菌ではありません。念のため)



コミュニティ・スクールから
スクール・コミュニティ
を推進する校門の看板

地域とともにある学校づくり～目指すべき学校運営の在り方～ でした。
ありがとうございました！